

2026年8月22日(土) — 9月23日(水・祝)

午前10時 — 午後6時

火曜休館 ただし9月22日(火)は開館

入場無料

O

N

N

E



武雄文子

筒井夏鈴



二人展

武雄文子
筒井夏鈴
二人展

自然の風景や環境をモチーフに、見えない力やその存在に目を向けて作品を制作しているアーティスト、武雄文子と筒井夏鈴による二人展「CONNECT」を開催します。

私たちは自然の中に身を置くと、光、風、温度、湿度など、その場にある様々な要素とのつながりを肌身に感じます。目には見えないけれど、そうした要素の循環、変化、相互作用の流れの中に、私たちが存在していることに気づくのです。

銅版画家の武雄文子は、風景の中に含まれている光を、分光（スペクトル）の原理によって引き出し、元のイメージに重ね合わせることで、揺らぎのある新たな光景を生み出します。映像作家の筒井夏鈴は、映像・写真による表現のほか、現場の音や影、空気の流れなどを展示の要素として取り込み、鑑賞者に環境とのつながりを意識させる空間を構成します。

両作家は、2025年に開催した夏の思い出ワークショップ「A-LAB GO+」

の講師を務め、それぞれ独自の技法や考え方にもとづいた作品制作の楽しさを教えてくれました。本展で紹介する作品群は、その時に学んだ創作の視点や可能性、さらには世界と私たちとの見えない結びつきへの興味をさらに広げてくれることでしょう。ぜひA-LABで少し不思議なアート体験をしてみてください。



武雄文子 | Spectacular pond | 2024年



筒井夏鈴 | Patina | 2025年



筒井夏鈴 | 此処-Asyl- | 2025年

の講師を務め、それぞれ独自の技法や考え方にもとづいた作品制作の楽しさを教えてくれました。本展で紹介する作品群は、その時に学んだ創作の視点や可能性、さらには世界と私たちとの見えない結びつきへの興味をさらに広げてくれることでしょう。ぜひA-LABで少し不思議なアート体験をしてみてください。

イベント

作品解説会

出展作家による解説を聞きながら作品を鑑賞します。

9月5日（土）14:00—15:30

出展作家



武雄文子 Takeo Ayako

銅版画家。「物質」と「光」の二重性のある表現手法で、ものや風景の内面や存在感を浮き彫りにすることを探求しています。

1994年大阪府生まれ。2019年京都市立芸術大学大学院美術研究科修了。近年の主な展覧会に、個展「Spectacular ponds」（ギャラリー恵風／京都、2025）、「第27回雪梁舎フィレンツェ賞展」（雪梁舎美術館／新潟・東京都美術館／東京、2025）等。



筒井夏鈴 Tsutsui Karin

映像作家。自然や日本の文化をモチーフに、鑑賞者が自然と向き合ったときの感覚を呼び起こす「自然の再現」をテーマに作品を制作しています。

2001年尼崎市生まれ。2026年京都精華大学大学院芸術研究科映像領域入学。主な展覧会に、グループ展「cycle」（京都精華大学ギャラリーTerra-s／京都、2025）、二人展「node」（kara-S／京都、2024）。



武雄文子 | 汽水城#01 | 2025年

住所

尼崎市西長洲町 2-33-1

※会場に一般用駐車場はありません

問い合わせ先

A-LAB

TEL / FAX 06-7163-7108

尼崎市文化振興課

TEL 06-6489-6385

FAX 06-6489-6702



ama-a-lab.com

Facebook @amalove.a.lab

Instagram @alab_amalove

